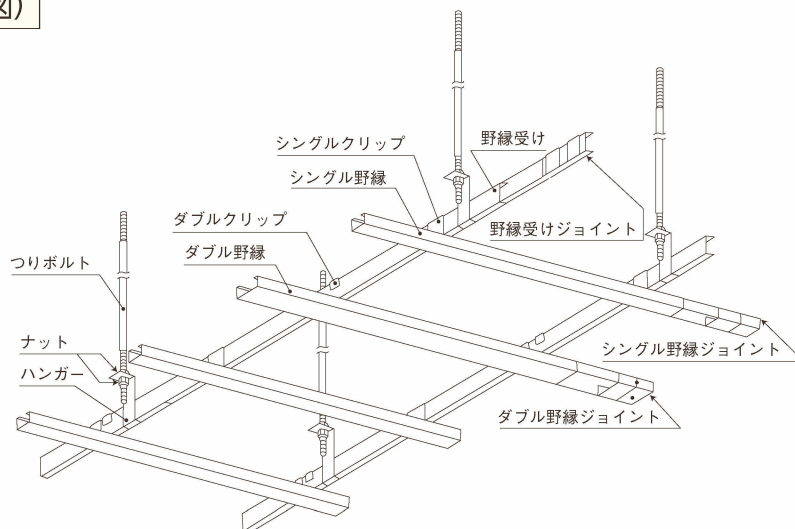


天井下地材 (日本工業規格 JIS A 6517 抜粋)

●部材の名称

天井下地材 (例図)



●部材の形状・寸法及び許容差

部 材	記 号	種 類	
		19 形	25 形
 シングル野縁	記 号	CS-19	CS-25
	寸 法	A × B × t	25 × 19 × 0.5
		L (長さ)	4000, 5000
	許容差	A, B	A (±1.5), B (±0.5)
 ダブル野縁	記 号	CW-19	CW-25
	寸 法	A × B × t	50 × 19 × 0.5
		L (長さ)	4000, 5000
	許容差	A, B	A (±1.5), B (±0.5)
 野縁受け	記 号	CC-19	CC-25
	寸 法	A × B × t	38 × 12 × 1.2
		L (長さ)	4000, 5000
	許容差	A, B	A (±0.5), B (±1.5)

備考：1. A及びB寸法は、部材の端部から200mm以上内側の部分で測る。
2. 厚さの許容差は、JIS G 3302による。

●品質及び構造・加工

- 本体と、クリップその他の附属金物との結合は、がたおよび緩みのないものでなければならない。
- 鋼製下地材は、使用上支障のあるねじれ及び変形があってはならない。
- 鋼製下地材の接合部は、仕上材の取付けに支障のある目違いがあってはならない。
- 本体の防せい処理は、JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯)に規定する Z 12 以上でなければならない。つりボルト及びナットは、JIS H 8610(電気亜鉛めっき)に規定する1種1級、2種1級以上、又はこれと同等以上の防せい処理を施したものでなければならない。

●性 能

項 目	種 類		適用試験項目	
	19形	25形		
亜鉛の付着量 ⁽¹⁾	最小付着量120g / m ² (両面)		亜鉛の付着量試験	
部 材 の 形状安定性	横 曲 が り	2L / 1000 mm以下	部材の形状安全性試験横曲がりぞり	
	そ り		〃	
載 荷 強 さ	下 向 き 荷 重	野縁	最大たわみ量 10mm以下 残留たわみ量 2mm以下	下向き荷重試験
		野縁受け	最大たわみ量 5mm以下 残留たわみ量 2mm以下	〃
	上 向 き 荷 重	最大たわみ量	5mm以下	上向き荷重試験

備考：(1)亜鉛の付着量の規定は、JIS G 3302(亜鉛鉄板)の表示方法による。

●材 料

鋼製下地材に使用する材料は、下表又はこれと同等以上の品質をもつものでなければならない。

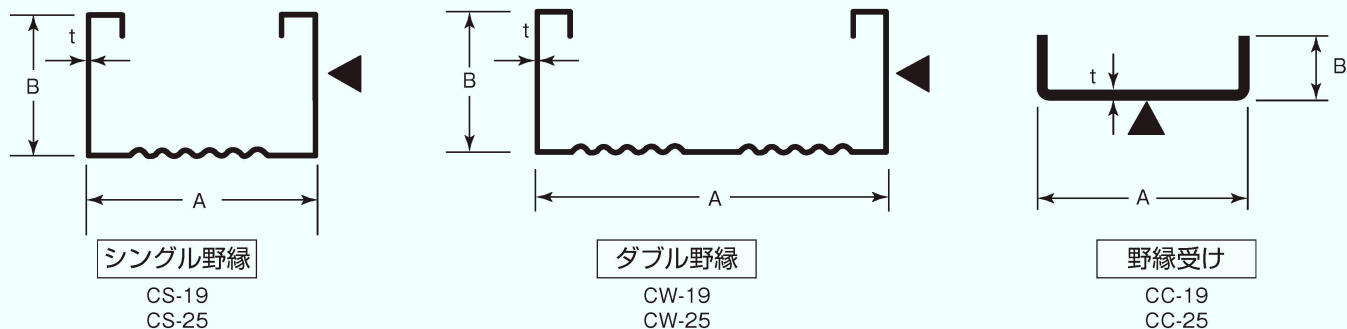
部 材 名	規 格
シ ン グ ル 野 縁	JIS G 3302
ダ ブ ル 野 縁	〃
野 縁 受 け	〃
ハ ン ガ ー	〃
ク リ ッ プ	〃
野 縁 ジ ョ イ ン ト	〃
野 縁 受 け ジ ョ イ ン ト	〃
つ り ボ ル ト	JIS G 3505 (軟鋼線材)
ナ ッ ト	

天井下地部材 (JIS製品)

●主要部材

MTK(株)各務原工場のJIS 製品には右記の刻印が▼印の所にあります。

TC **JIS** MTK



種 類		備 考	
天 井 下 地 材	野縁 野縁受け 及び 附属金物	19形	CS-19、CW-19、CC-19を附属金物によって組み合わせたもので、JIS A 6517の試験積載荷重294.20 N (30kgf)に野縁が耐えられるもの。 CS:シングル野縁(スリットを含む。) CW:ダブル野縁(スリットを含む。)
	25形	CS-25、CW-25、CC-25 を附属金物によって組み合わせたもので、JIS A 6517の試験積載荷重490.33 N (50kgf)に野縁が耐えられるもの。 CC:野縁受け	

●附属金物 表-1

単位：mm

スクリップ19	t 0.6 入数 1,000	Wクリップ19	t 0.6 入数 500	Wジョイント19	t 0.5 入数 200	吊りボルト	ネジ山径 9.0
スクリップ25	t 0.8 入数 1,000	Wクリップ25	t 0.8 入数 500	Wジョイント25	t 0.5 入数 200	ナット	厚さ 7.7
チャンネルジョイント19	t 1.0 入数 300	Sジョイント19	t 0.5 入数 400	ハンガー 19 (25)	t 2.0 入数 250		
チャンネルジョイント25	t 1.0 入数 300	Sジョイント25	t 0.5 入数 300				

●附属金物 表-2

単位：mm

附 属 金 物	種 類	
	19形	25形
つ り ボ ル ト	転造ねじ,ねじ山径9.0 (円筒部径8.1以上)	
ナ ッ ト	高さ7.7以上	
ハ ン ガ ー	板厚2.0以上	
ク リ ッ プ	板厚0.6以上	板厚0.8以上
野 縁 ジ ョ イ ン ト	板厚0.5以上	
野 縁 ジ ョ イ ン ト	板厚1.0以上	

備考：板厚の許容差は、JIS G 3302による。

天井下地部材 (試験方法) (JIS A 6517 抜粋)

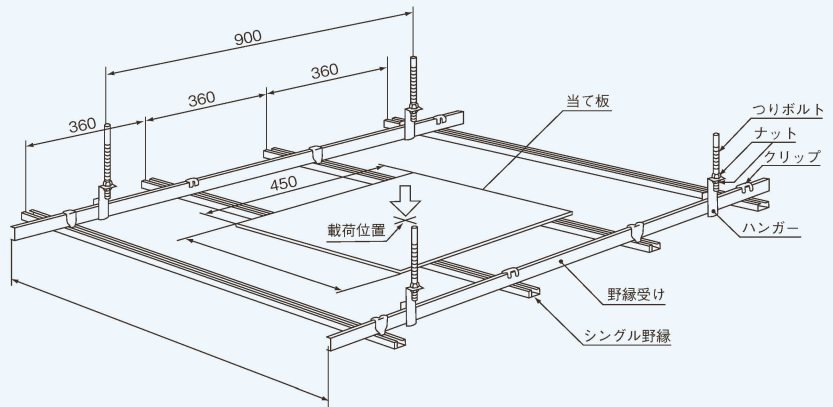
●天井下地材の強度試験

天井下地材を下図の通り組み立て、次の試験を行う。

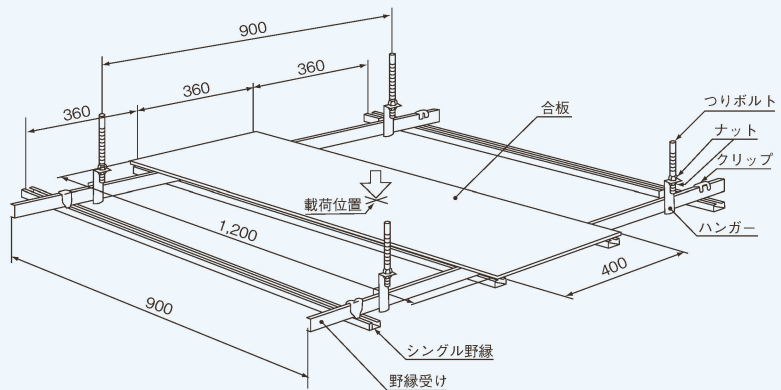
単位：mm

下向き荷重試験

(1)下図のとおり中央の野縁2本に450×450×15mmの当て板(合板)を載せ、その上に19形については294.20N(30kgf)、25形については490.33N(50kgf)の荷重を5分間かけ、野縁中央の最大たわみ量及び荷重を取り除いた後の残留たわみ量を測定する。測定は、2本の野縁について行い、いずれか大きい値を測定値とする。



(2)下図のとおり1200×400×24mmの合板を野縁受け2本に載せ、その上に735.50N(75kgf)の荷重を5分間かけ、野縁受けのつりボルト間中央の最大たわみ量及び荷重を取り除いた後の残留たわみ量を測定する。測定は、野縁受け2本について行い、いずれか大きい値を測定値とする。



上向き荷重試験

(3)上向き荷重試験 天井下地材を右図のとおり組み立て、天井材として JIS A 6901に規定する厚さ9.5mmのせっこうボードを取り付ける。その中央に450×450×15mmの合板を当て、294.20N(30kgf)の力で5分間押し上げ、野縁中央の最大たわみ量を測定する。測定は、2本の野縁について行い、いずれか大きい値を測定値とする。

